

地域役員等によるワークショップ結果

(地域コミュニティの今後の在り方に関する調査研究)

1. 目的

大牟田市では、令和5年2月に「加入率低下」や「担い手不足」等に焦点を当てた「地域コミュニティの在り方に関する市民アンケート」を実施した。その回答の中から、「会費の徴収が負担」「コミュニティの弱体化により、活動が困難となっている」といったさまざまな現状と課題が見えてきたところである。

今回、こういった地域の状況を地域活動に携わる役員等が改めて共有し、その解決に向けたアイデアを出し合うことで、地域課題の解決の方策を模索するワークショップを行うもの。

2. 開催日・参加人数

【第1回】

- ① 令和5年5月20日(土)10:30～12:00 10人
- ② 令和5年5月30日(火)19:00～20:30 19人

【第2回】

- ① 令和5年6月20日(火)19:00～20:30 19人
- ② 令和5年6月24日(土)10:30～12:00 7人

3. 参加者内訳

【役職別】

まちづくり協議会会長等校区代表者	6人	
(前)まちづくり協議会会長	2人	
まちづくり協議会副会長	6人	
PTA会長	2人	
その他(町内公民館役員・PTA役員等)	13人	計30人

【年齢別】

30代	1人	60代	12人	
40代	4人	70代	8人	
50代	2人	80代	3人	計30人

4. 出された意見等

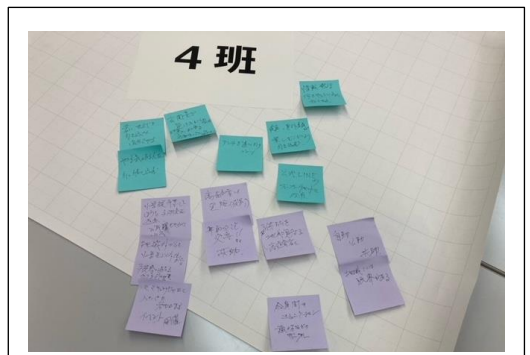
別紙①・②のとおり

5. 解決策各班発表取りまとめ

テーマ

①若い世代の参加を得るためのアイデア

- ・子ども会や子どもスポーツを取り入れることで親世代やおじいちゃん・おばあちゃん世代、2世代・3世代を入れていかないと若い人が入らないのではないかと。子どもを引き入れて何かしよう、子ども会で中学生までは何かに参加してもらおう、そういう行事をすることによって地域が活性化するのではないかと。
- ・まちづくり協議会で子どもを取り込んだ行事を実施して、親子で参加してくださいとすると取り込めるのではないかと。
- ・コミュニティに入っているメリット、コミュニティが地域に対してやっているメリットをきちんと皆さん伝える。見守り隊は有料でやっている訳ではなくボランティア、防犯灯も市の税金で点けているわけではなく、地域でお金を集めて点けている。ちゃんとメリットを受けていることを教える。分からなかったら防犯灯を消す。防犯灯の電気料は市で負担してほしいという意見もある。
- ・個別訪問でのお誘いは押し売りみたいで無駄なパワーばかりいる。そういうのではなく、自分が地域でやっていることを情報発信することが大事だと思う。町内公民館の行事をかわら版で毎月発行しています。町内公民館に入っている人だけではなく入っていない人にも配布しています。また、倉永校区ではくらなが祭を行ったが、そこでは若い方が大勢参加してくれた。高校生もボランティアで参加してくれた。そういうことをやりたいという子は結構いる。やりたい人を引っ張り上げる。やりたくない人を引っ張り上げても雰囲気が悪くなりマイナスにしかならない。また、役員やスタッフが楽しんでいる、その雰囲気を見せることで若い子たちはそこに引き込まれるのではないと思う。



②町内公民館・自治会から退会させないためのアイデア

- ・辞める理由として小学校を卒業して子ども会を抜けて町内公民館をぬけるということが多かった。神屋原公民館でも子ども会が解散したが、飲み会の際に子どもに昔あそびとかをさせたいという若いお父さんがいた。それで始めたのが「神屋原わんぱくクラブ」という会です。中身は子ども会と同じですけれども、その町内公民館だけじゃなく色々な所から参加できるようにしている。町内公民館から補助金も出しているが、1世帯500円を参加する世帯からは頂くようにもしている。そうめん流し・門松づくり・ハロウィン・芋ほりなどをしている。小学生だけじゃなく、小さい子、中学生でもいいようにしている。ママだけじゃなくパパも参加できるような環境を作る。

高齢者の方は役員を免除している。地域によっては年寄りばかりというところもあるので、そこは皆さんで支え合っていけばいいと思います。

あと、見守り隊であったり防犯灯であったりを情報発信することが大事だと思います。

・自然減なのでそれを止められるところはない。

そもそも自分達が必要とされていない、入る意義がないということであれば本当にやる必要があるのか？嫌がられながら訪問して勧誘して、回覧版回して、防犯灯代や館費を集金して、30年前に1軒入っただけ。誰も入っていない。

そもそも今の組織は本当に必要なのか？若い人たちは若い人たちでSNSを活用したり、地域に縛られない、今まであったような地域コミュニティじゃないコミュニティを持っている。

自助・共助・公助。自助は自分で頑張ります。共助が今自分達がやっていることだが先が無いのであれば、指針を私たちが出すのではなくて、公助の部分でそういったグループを作るのであれば市がきちんと援助しますよとか、そういった指針を出してもらわないと、私達では皆さん頑張って元気でいてねと祈るしかない。

必要でない組織は消えていくしかない。そうじゃないと頑張っている人が不幸になる。

・この班では、若い世代が多く子ども・学校・まち協との連絡は密に取れていて、これをいかにうまく続けて行くかが課題。高齢者になると金銭的な負担が多くなってくるので、それだけ負担が大きいのであれば公が補助してほしい。

・会員さん同士の繋がりが薄い。挨拶もなかなか無い、顔も分からないということもあるので、まず会員の方々のコミュニケーションを深めていく。そのために趣味の集まりを作っていく。それで公民館自体が楽しい場所だというふうにしていく。

あとは、町内公民館に入っていると色々な生活の問題が出てきたときに、町内公民館を通じて市と交渉をして解決してもらおう。個人で言ってもなかなか取り上げてもらえないということもあると思うので、公の場で相談を受けたら解決していくという町内公民館のメリットを知らせていく。

③デジタルの活用を進めるためのアイデア

- ・ラインを構築できるような詳しい人がいない。まず最初のところを勉強させてほしい。
- ・ラインで色々な情報を発信するにはルールが必要。
- ・校区の話、地区の話には若い人が必要。

④負担を軽くするためのアイデア

- ・ボランティアや清掃活動など負担を減らすためには、若い人が参加する。
- ・公民館の館費などの負担を減らすために、市からの補助金を増やしてほしい。役員等への報酬の一部を補助するなど検討してほしい。
- ・公民館長の負担が大きい。公民館長になるとまちづくり協議会の役員も兼務になる。公民館の中でも役割分担する。自分達から変わらないと次の担い手は探せないのではないか。

意識面

私たち高齢者の(経済成長時代)→(縮小時代)→意識改革が必要

地域活動への継続 25%が継続の意思がない

公民館に加入するメリットがない

何のためのコミュニティ？

何のための加入促進か

メリットとは

高齢化

24年前は105世帯の加入が、今は86世帯(空家10、未加入6) 加入者の年齢も高くなってきている

独居高齢者の死亡 → 情報をしる → 遅い

子供の減少により、地域が静か 実際の人口より少なく感じる

役員不足 高齢化世帯が多くなり公民館活動ができない

町内行事の実施が高齢化や参加者不足し大変になっている 年3回の環境整備や体育行事等

地域高齢化し行事がうまく出来ない 子どもたちが少なくなった

公民館としては高齢化が進んでいる

年をとったから入りたくない

公民館員として残りたいけど、年寄りが入っていかない

高齢になると辞める

新興団地 → 年とともに高齢化 → 役員が出来ない → 公民館をやめる

金銭面

会費が各公民館でバラバラ

加入している人(世帯)への負担が大きい(金銭面・動員)

役員手当もあるところ？ないところ？

行政からの募金が多すぎる

年会費が高いでは各公民館でいくら位か

奥様が亡くなられて生活が大変になったので脱退

会費→金額 5,000円～6,000円/年 何に使われているのか?理解されている？

負担

役員の主な仕事内容は？どこまでやるべきか？

行事、活動をどこまでスリム化するのか？

1回/年位の行事ではコミュニティは取れないのでは？

役を受けると単純に大変なイメージ(イメージが悪い)

役員の負担

担い手がない、1回役員になるとなかなか辞められない 館長になるなら辞める

役員をしたくないから入会しない

ボランティアの回数が多いから入りたくない

人のお世話をしたくないから

隣組長をしたくないので入りたくない

加入者への説得

集める負担

動員があるから参加したくない 交流したくない これが気になった77%??

市職員の参加

市の職員が退職する前にインターシブみたいにして市民共同のまちづくりに参加できる取組みをして欲しい

大牟田が進めている公民館組織に市の職員が退会する人が多くなっている

市職員が公民館 自治会に入っていない

若い世代の参加

若い人を加入させる方法を考えるべき

若い人は仕事をしているので時間がとれないので、地域とかかわりたくない

退職した人かお年寄りに限られる

個人主義的になって集団になじめない人が多く、それでも生活できる

若い人は個人主義(人とかわりたくない)が多く、自分だけ良ければ良い、共同、たすけあいの気持ちがない

核家族化や仕事面、家庭の状況により、協力が難しい

公民館の次世代の担い手不足(役員になりたくない)

子どもが小学校を卒業すると公民館もやめてしまう

若い世代が求めるものは何か メリットは何ですか

次の世代の役員がいらない

新築の家へ訪問してもドアも開けてもらえない 子どもは1年生で地域でお世話している

子どもの顔が分からない

子どもが大きくなると子ども会をやめ、公民館もやめる →子どもの親に新しい担い手になって欲しいが

情報発信(デジタル活用など)

地域コミュニティのデジタル化

地域情報の認知経路のLINE、どのようにすすめるのが分からない LINEをやりたいがらない人も多い

LINEの活用不安もある 回覧板を併用

地域の情報の発信の工夫 回覧板は手間がかかる 地域性がある

LINEグループ作成

SNSの実活動では責任感がない

SNS等は欠席が多い

コミュニケーション対面よりSNS等の非対面でのコミュニケーションを望んでいる住民が多くなってきている

世代共通

公民館加入してない人へ働きかけ(取りこぼしている)

回答しなかった65.7%の方は地域コミュニティに興味がないのか、面倒なのか？

コミュニティに興味がない方と、アンケートに答えない これが一番気になる

便利な世の中になったり、コロナ過によりつながりが薄れた(環境の変化)

公民館組織からの脱会

動員について 街中とその周辺部では活動の中身も違うし、構成員も違うので活動が難しい

公民館への加入者が年々減少 87世帯 加入48 未加入39

近くの住民と会話する機会が少くない

空家が増加 今後も増えると思われる 活気がない

加入して良かったこと 活動が楽しい4.5%しかない 楽しくなければ入る人はいなくなる

公民館組織の加入が少ない 辞める人が多くなった

人つきあいがわずらわしい

独居で入院中で家にいないので脱する

加入率が少ない

人口減に伴う組織の弱体化

行事のマンネリ化

地域と接する機会が無い(案内もない)

公民館(高齢)とまち協(若者)のかべ

時間が無い 時間が取れない 家計に余裕がない

興味が無いのを興味持たせるのが難しい

1. 興味が無い 年に取れる時間が1時間とはありえない 2. 個人主義である

子ども＋親子との接点づくり

子どもたちのイベント実施し親を取り込む
親子参加のイベントを実施することで、交流を図る
少年スポーツを行い、親との交流を図る
長い目で見れば、小学校時代にソフトボールを教え、青年になって監督が勧誘する等
PTAと仲良くする 共同でのイベント
子ども会等と積極的にふれあい 共通の目的を見いだす
コミュニティで親子行事で取り込む

地域外からも小学生以外でもOK 子ども会にあたるクラブを作る
小学校の低学年の家庭に積極的に声をかける

若い世代との接点づくり

若者のイベントを積極的に実施して、興味を引く
若い世代が求めている事項について調査が必要
やる気のある人を引っ張り込む
若い世代を引き込み 褒めてやる
若い人が参加すると早い。解決策も違うものが出てくる
役になるのは最初嫌だった(イメージ)、やっているうちに楽しくなる
若い人に参加してもらうために、若い人と繋がっておかなければならない

参加型の機会づくり

地域の問題を一緒に考える機会を設ける または意見を出してもらう
地域作りを一緒に考える機会を設ける
地域のかかえている課題を一緒に考える機会を設ける
自由に意見が出せるシステムを作る
館員同士のコミュニケーションを深めるためにまず挨拶運動 趣味の集まりをいくつも作り 楽しい場所とする
生活の中にコミュニティの場を設ける
自然と集まれる場 またはコミュニティが出来るようにする
地域内での交流の場を設ける
共同のまち作りの必要
会員間のコミュニケーション 趣味などのサークル
会話をを行う
SNSを使用し、家をでれない(足が不自由等)方に向けて特に独居の方にも参加できる取組が出来たらいいと思う

情報共有・発信

地域の情報紙を作成して、全ての家庭に把握してもらう
公民館との差別化 情報源等
大牟田市から公民館自治会の必要性を広報に載せてもらう
ライン、初期講座はじめる トラブル → ルール
デジタルを活用するための指導をして欲しい
デジタル活用にはまず使用方法の教育が必須では
公式LINEよりオープンチャットを活用
情報発信 何をやっているか知らせる
活用にはルールが必要 トラブル防止として
LINE伝達のルールが必要
LINEを使うことは良い 組長さんにスマホを持っているか確認し、公民館でLINE交換する
LINEの活用 町内会役員
LINEの情報は 行事、会議等の伝達を主とする
高齢者では操作ができない
若い人はできて高齢者はできない
LINEの環境を整える人がいない

負担軽減

館員の人で役員や色々な事が不得手の人には責任のあることをさせない
館員の人で館の仕事はさせない
公民館の中で組長や班長役を外す
町内公民館の中での役割分担
あんなたちは組長せんでよかけん残ってくれをいう
80歳になって 組長免除にする
民生委員との協力体制必要
館費の見直し
高齢者の金銭面の負担を心配させない
一定の年齢になったら役はしなくていい 引き留める方法の一つ
公民館 自治会の役員の身体的負担をへらす
負担を軽くする 行事の取組を考える
負担を軽くする 古い会員さんからの物言いが強い 街の困りごとをまち協で話す
負担を軽くする 自分の意識を変える
ボランティア・負担を軽くするには若い人が加入する
高齢者は免除(役員)
玄関先で受け入れられないから無駄なパワーがいる 不要なパワーは使わない
負担の軽減 役員の役割を明確にすることで気持ち的に楽かも
防犯灯の電気料は市で負担してほしい
公民館長になるとまち協の役もあり兼務が多すぎる

公民館のありかた

公民館の魅力を作る
公民館 自治会の活動内容で 生活の中で必要な事が出来ることを考え実行する
公民館のメリットを作る
公民館 自治会加入メリット
公民館長 その他の役員の役割の明確による
公民館・自治会は本当に必要な組織なのか
公民館長自身の考え方を変え現在のやり方を模索する
市の補助金を増やす、館長の手当を補助する

地域活動のありかた

子どもたちを地域で見守る 高齢者も
年取ってこそ必要 共助
アンチを追いかけない
役員 実行委員が楽しむことにより引き込む
楽しい行事とは、達成感のある(弱い方を少し助けることが出来た等)ものだと考えます。若い人がやりがいの
ある取組ができたらずめないと思うし口コミで広がると思う

分類対象外

公民館行事、会合に出てくると、役員等にされるので男性が参加しない
地域に若手がいても地域の行事に参加してない
役員等になるとパソコンができないので参加しない
まち協の役員の中には、若い世代の人がいない まち協に対する興味が無いように思える
天の原校区小学生全員に保険をかけているが、子ども会に入ることを嫌がる親もいる
公民館で子ども育成費一人あたり 2,000円を支出している
団地公園、通学路などの清掃に子どもを参加を要請している 事前に草をかっているので
1時間で終了
子ども見守り隊など子どもの親は地域任せであり。交通事故の後、親が協力的になった
クラブ活動に参加しているので子ども会に入らない
若い世代で何歳くらいまでいますか 20歳～50歳
公民館長の負担が大きい
まち協役員との兼任による負担増
自助 公助 共助
地域には限界がある
小学校を卒業してしまうと子ども会を退会 公民館もやめてしまう
LINEの会話でのトラブル発生
世代が違う方をどうつなげていくか？
地域のよってはデジタル化もできない、上内は要望してやっと光が来た
手間がかかる
上内校区は家を建てられないから若い人が出ていく
校区の悩み、どこも一緒
お宮の行事など含めると出事もかなり多い
館員が増える、若い人が増えないと負担は減らない